

社報 (株)南信サービス 2022年度環境活動報告

2023年7月発行 《編集・発行元》(株)南信サービス | SO事務局

環境目標の取組み結果

1. 油水分離槽清掃作業し忘れ対策（担当部署：営業部）

【目的】2023年度までに油水分離槽清掃の指示書を全箇所作成することで作業し忘れを無くす。

【目標】2022年度は未作成指示書の35%分を作成（昨年からの全体で60%作成）する。

営業部では、前年から引き続いて作業手順書の全箇所作成という目標で取組みました。作業手順書を作成しておくことで、作業箇所の把握や作業内容（認識）の違いが起きないというメリットがあります。（それがひいてはお客様の満足度に繋がってきます）

今年度の目標は35%分ということで取組み、結果はその目標とした35%分をなんとか達成したという状況でした。前年の目標が25%だったこともあり、今年はなんとかもう少し上積みしておくことで、来年の目標値を下げるつもりでしたが、残念ながらギリギリの達成となってしまいました。

来年は未作成の残り40%分が残ってしまいましたので、今年度のペースでは間に合いません。更なるペースアップして目標達成を目指してがんばります。

2. 運転手の労働災害対策（担当部署：業務部車輜課）

【目的】労働災害の要因を無くすことで労働環境の改善を目指す。

【目標】労働災害の要因を再々検証しその対策を実施することで、今年度は労働災害0を達成させる。

業務部車輜課として昨年度も労働災害が発生してしまったため、今年度こそ労働災害0を達成させようという目標で取組みました。

内容としてはヒヤリハットや安全衛生教育を行いました。残念ながら1件労働災害が12月に発生してしまい、目標達成はなりません。

具体的には、槽内清掃の現場で、槽の入口に鉄管で枠を組んで落下防止措置を行い、そこにホースを固定させて吸引作業をしていたのですが、作業員が中の様子を見たタイミングでホースが暴れたために、そのホースが目当たってしまい負傷したという状況でした。

今年度も労働災害0が達成出来ず、来年度も取組みをしていきますが、来年度は労働災害0という結果にこだわるというよりは、労働災害となる要因をもう1度見直して特定出来た要因を全て無くすことを目標として、その達成を目指していきます。

3. 車輛のコスト対策（担当部署：業務部車輛課）

【目的】コストの高い車輛の問題点を解決することで、コスト削減を目指す。

【目標】各車輛の稼働1日当たりコストを割り出し、コストの高い車輛を特定し、そのうちダンプ車輛（アームロール含）の改善策を実施する。

今年度は新しい目標として車輛課のコスト対策に取り組むことになりました。車輛毎にコストを割り出してコストの高い車輛を特定して、また今年度はダンプ車輛（アームロール含）に車種を絞り込んで対策を検討しました。

具体的に何をしたかですが、まず車輛別の年間コストに対して車輛の稼働日数を調べて稼働日1日当たりのコストを割り出しました。そのコストを割り出した資料によって車輛毎の稼働日数の偏りや、修繕費などの偏りを見つけ、その傾向を元に改善策を検討していきました。また、別角度の検討として、高速道路と一般道によるコスト差（高速代や燃料代で）を算出しました。

今年度の結論として、使い勝手が悪いというか場所によって使えないことで稼働日数が少ない車輛があったり、日毎の稼働率を割り出したところ1日あたり必要となる台数がわかり、そのために稼働日数が少なくなっている車輛があったりしたので、今後は代替などを提案していきます。

4. リサイクル施設の老朽化対策（担当部署：業務部施設課）

【目的】リサイクル施設の老朽化対策を行うことで施設の稼働日数を延ばし、また低下してきた処理能力の回復を目指す。

【目標】今年度はリサイクル施設の稼働年数を延ばすべく老朽化対策を検討して、最低2件は実施する。

リサイクル施設も稼働開始から10年以上経過しており、大きな部品でも老朽化が目立ってきております。また、その老朽化により処理能力も低下してきているため、急な設備停止や大幅な処理量の減少などが無いように対策していくことにしました。

まずは施設の担当者全員で対策案を検討したのですが、対策案というか対策箇所というかが大変たくさん出てきましたので、目標を75%以上の実施へと変更して取り組みました。最終的には23件もの案件が出てきて21件実施出来ました。また、来年度ですが消耗度の高い部品は摩耗状態の計測等を定期的に行うことにし、まだ実施していない案件や、新たに出てくる案件を実施したいと思います。

5. 工場の臭気対策（担当部署：業務部施設課）

【目的】工場内の臭気要因を全て特定し、臭気苦情0を目指す。

【目標】昨年度に引き続き対策を行い、今年度臭気苦情0を達成させる。

工場では臭気対策に継続して取り組んでいます。今年度は臭気の原因の1つである硫化水素が、油水分離施設機能強化工事が完了することによって減少すると思われるので、その手順を確立することを目標としました。

上記仮定の根拠ですが、硫化水素の発生要因として希硫酸の使用が挙げられます。機能強化工事が完了することでその使用量が減少するため、硫化水素の発生要因減少に伴い、硫化水素自体も減少すると思ってました。ただ実際の工事完了後に計測したデータからは減少の傾向はみえておりません。計測期間が半年程度しかない

ので今後も継続していく予定です。
また手順書は3月に一応作成しましたが、まだ不具合があったり見えていない箇所が残っていると思いますので、今後も不具合の改修等進めていくと共に、特に作業者の安全を最優先に手順書も改訂していきたいと考えています。



6. 環境保全意識の向上（担当部署：共通）

【目的】環境保全活動への取組みなどにより、環境に対する意識の向上を目指す。

【目標】環境保全活動を行いつつ、SDGsへの取組みを定着させる。

長野県SDGs推進企業情報サイトに登録したので、実際にSDGsを取組みしていけるよう定着を目標にしました。その後、スタート直後にISOの審査があり、審査員から長野県の情報サイトの取組みだけにならないように指摘されたため、計画をそこで検討し直して取組みはじめています。

実際に今年度やったこととしては、経営陣や社員への説明会を開催してSDGsとは何かを理解してもらうことと、部課長以上に今後の取組みについて検討してもらって、案を出してもらいました。

来年度は従業員全員に今後の取組みについて検討してもらい、集まった案に対しての課題やリスク機会を検討し、そのリスクの解決策を課題などを検討して目標を決定していきたいと思っています。

リスク及び機会

■ リスク

臭気騒音発生による社会的信頼性低下及び労働環境悪化
労働災害や労働時間超過等による社会的信頼性低下及び労働環境悪化
他社との価格競争激化及び処理原価上昇による利幅減少
自然災害の影響による作業の停滞、材料の未到着等
環境意識低下による社会的信用性低下及び環境悪化

■ 機会

法等の規制強化対応による社会的信頼性向上
適正な教育を受けた力量を持つ人員確保による遅滞ない処理
設備投資による設備改善及び遅滞ない処理の実施
現場作業の事前理解による高効率で現場に配慮した作業の実施
SDGs取組み推進による社会的信頼性向上

<潜在的な緊急事態>

施設全般	火災や地震等による設備の故障や焼失等 消火剤等の河川への流出
油水分離処理施設	油類漏洩による河川への流出 硫化水素発生による拡散
油水分離、有機 収集運搬業務	天竜川への排出水が汚濁（水質悪化） 車輛事故及び故障による荷物の漏洩等

環境側面報告

■ プラスの著しい環境側面

- ・ 会社全体 長野県SDGs推進企業への取組み
- ・ 営業活動 現場指示書作成による誤作業対策

■ マイナスの著しい環境側面

- ・ 汚泥リサイクル施設 機械配管の故障破損

環境関連法規等の遵守状況の確認及び

評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■大気汚染防止法	遵守しています
■水質汚濁防止法	遵守しています
■廃棄物処理法	油水分離施設追加他届出あり 許可更新あり 産廃収集運搬（新潟県）
■消防法	遵守しています
■ダイオキシン類対策特措法	遵守しています
■P R T R法	遵守しています
■毒劇物法	遵守しています
■省エネ法	該当せず
■温対法	該当…非エネ起源CO2、N2O（報告書提出）
■肥料取締法	遵守しています
■放射性物質汚染対策特措法	遵守しています
■河川法	遵守しています
■労働安全衛生法	遵守しています
■環境配慮契約法	適合しています
■地元協定	適合しています
■その他家電リサイクル法など	順守しています

2022年度遵守状況の評価の結果、遵守されていました。
違反、訴訟等もありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

水溶性の受入基準の確立を早急にやってもらいたい。新設の手順書の作成もまず作ってから検証してってもらいたい。工場の運転員不足は今度1名補充するので足りるのではないか。逆に足りるようにやりくりしてもらいたい。高齢化については現在ハローワークで年齢制限がかけられないので承知してもらいたい。SDGsにも関係するが、現在太陽光発電と水力発電（放流水で）、排ガス排熱による発電を検討している状態です。また当社来期で50期となるので、50周年の記念に何か出来たらと考えているところです。

環境方針

当社は、廃棄物の収集運搬及び中間処理事業活動を通して、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことで、環境汚染予防及び関連するその他の環境保護に取り組みます。

関係する環境関連法規、条例、地元協議及び同意するその他の要求事項を遵守します。

また、以下の事項を考慮に入れつつ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目標を設け、その達成に向けた活動を定期的に見直しながら推進します。

1. 廃棄物処理施設の運転管理向上
2. 資源・エネルギーのリサイクル向上
3. 廃棄物量削減
4. 環境保全意識の向上

以上を指針とし、地域社会に貢献するとともに、自然環境を尊重し、明るい未来のためにまい進します。

2016年2月6日 代表取締役 竹村 博文

組織図

